

## 父親同士の連携 必要性を確認

九州・山口サミット

父親たちが子育てについて語り合う「九州・山口パパサミット」が父の日の19日、福岡市で開かれ、「イクメン（育児をする男性）」のこれからの課題として、父親同士のつながりを強めていく必要性を確認した。

サミットは、イクメンを支援する団体「ファザリーング・ジャパン九州」の主催で、約100人の親子が参加。「イクメンの先にあるもの」父親として暮らすこと、そして次のステージ

へ「を」テーマに議論した。はじめに各県代表の30〜40歳の父親8人が、「取り組みを地域に広げられない」「父親と母親の役割分担をどうしたらいいか」などの課題を発表。団体の小



サミットで採択した宣言を掲げる父親たち

津智一代表理事(39)が、自宅マンションでチラシを配って父親仲間を作り、清掃活動などを行っていることを紹介し、「東日本大震災を受けて、防災面から地域の中で父親が必要とされている」と語った。役割分担については、参加した父親らから「話し合いが大事。夫婦間のコミュニケーションがよくなった」との意見が出た。

進行役の常務理事、中村守男さん(34)が「パパ友をつくることで、働き方を見直す工夫ができる」などとまとめ、サミットの宣言として「パパ友とつながる」を採択した。

